

パナマ共和国 ワルテル・コーエン大使の表敬訪問

この度、ワルテル・コーエン駐日パナマ共和国大使が着任され、11 月 11 日（月）に当協会への表敬訪問を受けました。概要は以下の通りです。

【面談概要】

日付：2024 年 11 月 11 日（月）

場所：川崎汽船

出席：パナマ ワルテル・コーエン駐日大使、サラディス・デル・リアル二等書記官
サミュエル・ゲバラ セグマル東京チーフ、他
日本船主協会 明珍幸一会長、土屋恵嗣副会長、篠原康弘理事長、
綾清隆労政委員会副委員長（川崎汽船 専務執行役員）、他

冒頭、明珍会長からは、コーエン大使の着任に歓迎の意を表するとともに、日本商船隊の半分がパナマ船籍であることや、パナマ運河を通航する船舶の約 10%が当協会会員会社の運航船舶であること等に触れ、パナマは日本の海運業界にとって特別な関係にあると述べました。その上で、パナマ政府が同国籍船の安全確保や運河の安全な通航確保を通して、日本商船隊の活動を支援していることに謝意を表明。さらに、昨年、同国で見舞われた深刻な干ばつにより、国際物流におけるパナマ運河の重要性が再認識されたところ、船種間の公平な通航機会や、通航料の透明性の確保に加え、（外航船舶の脱炭素化に向け）運河を通航する環境適合船舶に対するインセンティブ付与の必要性に言及しました。これに対し、同大使からは、ムリーノ同国大統領は海事弁護士として 30 年以上のキャリアがあり、海運業界への理解があることや、日本の海運業界はパナマ政府にとって重要なパートナーであり、今後も意見や要望等について耳を傾け、本国に伝達していきたいとの意向が表明され、日本の海運業界とパナマとの関係維持と強化の為、対話を継続していくことを確認しました。



左から、綾労政委員会副委員長、土屋副会長、明珍会長、コーエン大使、
ゲバラ セグマル東京チーフ、デル・リアル二等書記官、篠原理事長